お茶の水女子大学リベラルアーツとＦＤ公開シンポジウム

平成 21 年 2 月 12 日（水）

第1部「学生からみた文理融合リベラルアーツ」

21 世紀型文理融合リベラルアーツの全体趣旨

三浦 徹（前教育機構長）

今年から文理融合のリベラルアーツという科目群を始めました。今年は三つの系列ですね、「生活世界の安全保障」。これは小林先生が運営の責任者になっています。それから「色･音･香」は、生活科学部の食物の村田先生が責任者で運営しています。「生命と環境」は、理学部の生物学科の最上先生が責任者で運営しています。

これは新しい試みで、お茶大にとっても新しいのですが、ほかの大学を見ても、文系、理系に共通するテーマを立てて、十数科目の科目群を作るというのは日本でも例がないし、それから国外を見ても珍しい例だと言っていいと思います。ただ、それだけになかなか難しいところがありまして、いろいろやりながら改良していく必要があると思っています。

そこで、9月にも、こういうシンポジウムをやったのですが、前期に実際に授業をした教員の人たちの報告を聞きながら問題点を考えていくというのをやりました。今回は、実際に受講している学生の人たちの感想、それから、こうやったらいいのではないか、こんなところがうまくなかったという意見を率直に出してもらって、それぞれの実際皆さんが聞いた科目について、また、それだけではなくて全体として、こういう形での授業のやり方がうまくいっているのか、どこを変えればいいのかということを一緒に考えたいということで、授業を聞いている7つのグループの方に報告をお願いしました。とても楽しみにしています。

あと、授業全体の様子をお話ししますが、前期には講義を6科目、それから演習、実習、実験という 20 人規模ものを 10 科目開きました。講義が 1206 名で、履修登録をした人の数は平均すると 201 名という、かなり大人数になっています。ただ、これは前期に開講している講義が少なくて、小林先生の講義とか頼住先生の講義は 300 名とか 400 名になってしまったということで、平均が多くなっています。後期は講義を 14 科目と、演習は生命科学の館山でやる演習とＮＰＯのインターンシップの二つだけなのですが、講義の方は 1151 名の人が履修して、平均の数は 82.2 人です。実は当初設計したときに一つの講義が大体 80 人ぐらい、多くても 100 人ぐらいになるように科目を用意したのです。というのは、80 人ぐらいであれば講義形式でも、皆さんの意見を聞いたりしながら双方向的に授業ができるかなということで、その 80 という数を考えたのですが、後期は大体予定の感じになったなというところです。数はそうなっていても中身がどうだったかというのが一番なのですが、そこは今日皆さんの話を聞いて考えていこうと思っています。

このプログラム自体は、来年からあと二つ、ジェンダーと、「ことばと世界」という新しい系列が始まりますし、大体2年が1周期で、しばらく続けていきます。このプログラムができるのも、文部科学省の方から、新しいリベラルアーツを作るということで特別な予算を頂いていて、そういう双方向的な授業をするにはＡＶ設備なども重要なので、この教室も新しく入れ替えました。そのほかの教室も、60 人以上の教室には全部プロジェクターを置くというようなことも一緒にやっていますので、これを機会に、お茶大の授業を質･量ともにレベルアップさせたいと考えています。

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

Copyright 2008 Ochanomizu University, All Rights Reserved.